

大阪府介護生産性向上支援センター
伴走支援プログラムDAY 5（成果報告）

特別養護老人ホーム明星による見守り支援システム設置の取り組み報告

2025年 3月11日

【事業所名】 特別養護老人ホーム明星

01 事業所概要

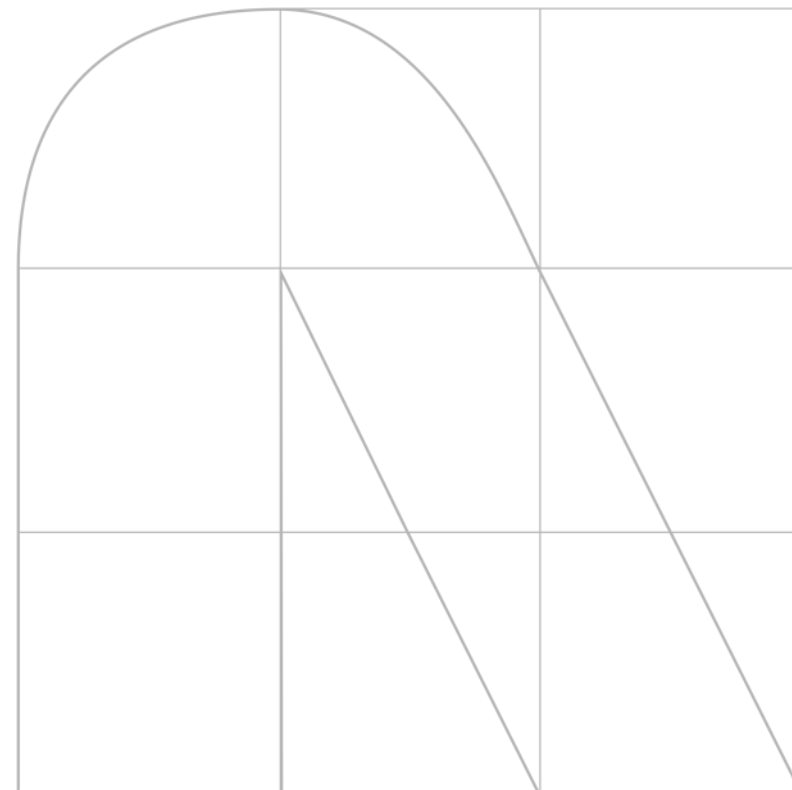
02 取組概要・流れ

03 取組結果・成果

04 取組のまとめ

01

事業所概要



01 事業所概要

介護老人福祉施設 従来型

開設日：平成5年 4月

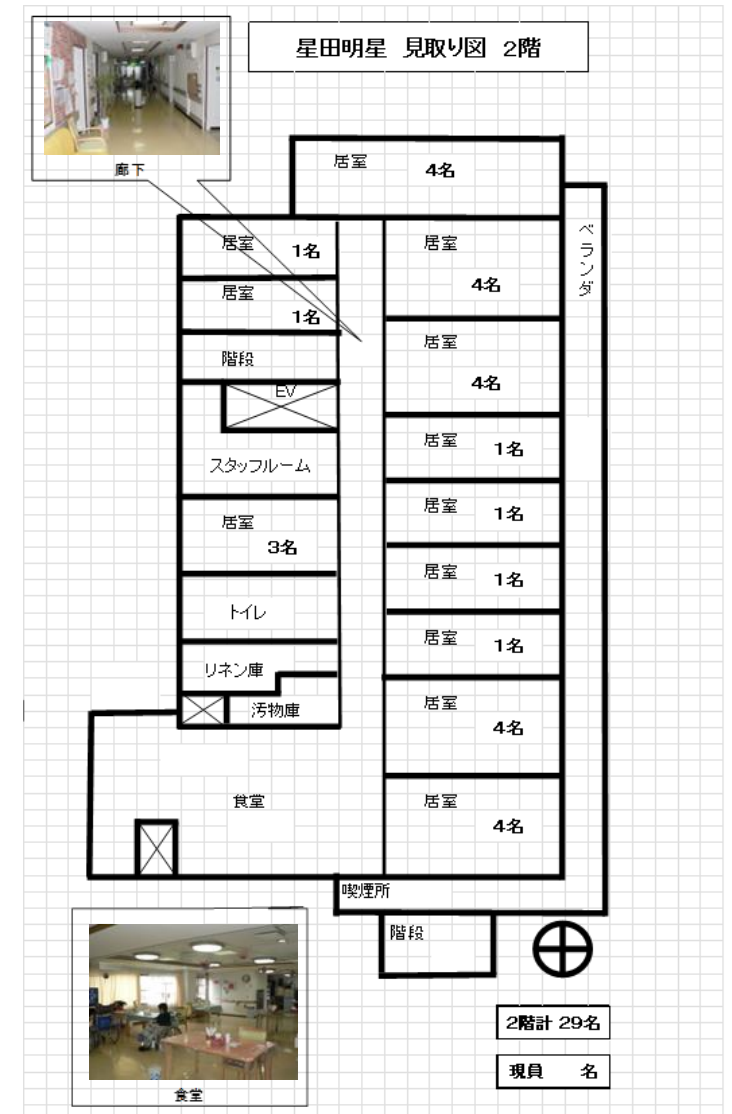
所在地：大阪府交野市星田

定員：70名（入居50名 短期入所20名）

居室：個室20室 3人部屋2室 4人部屋11室

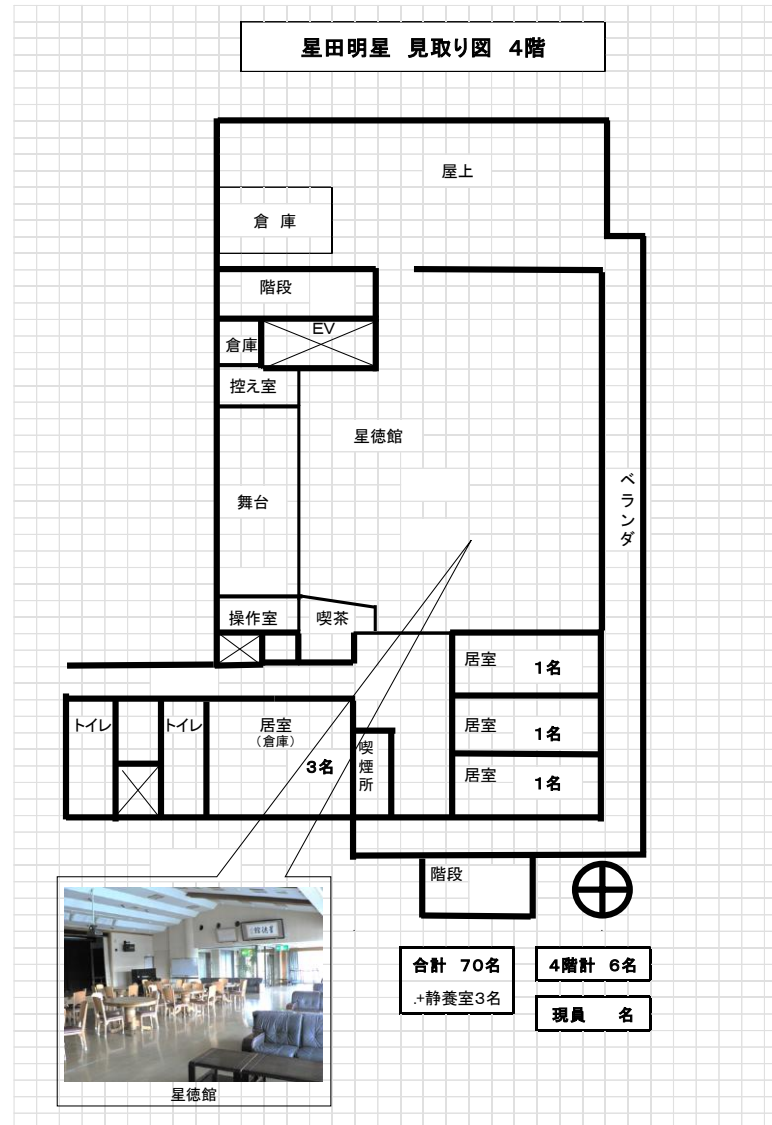
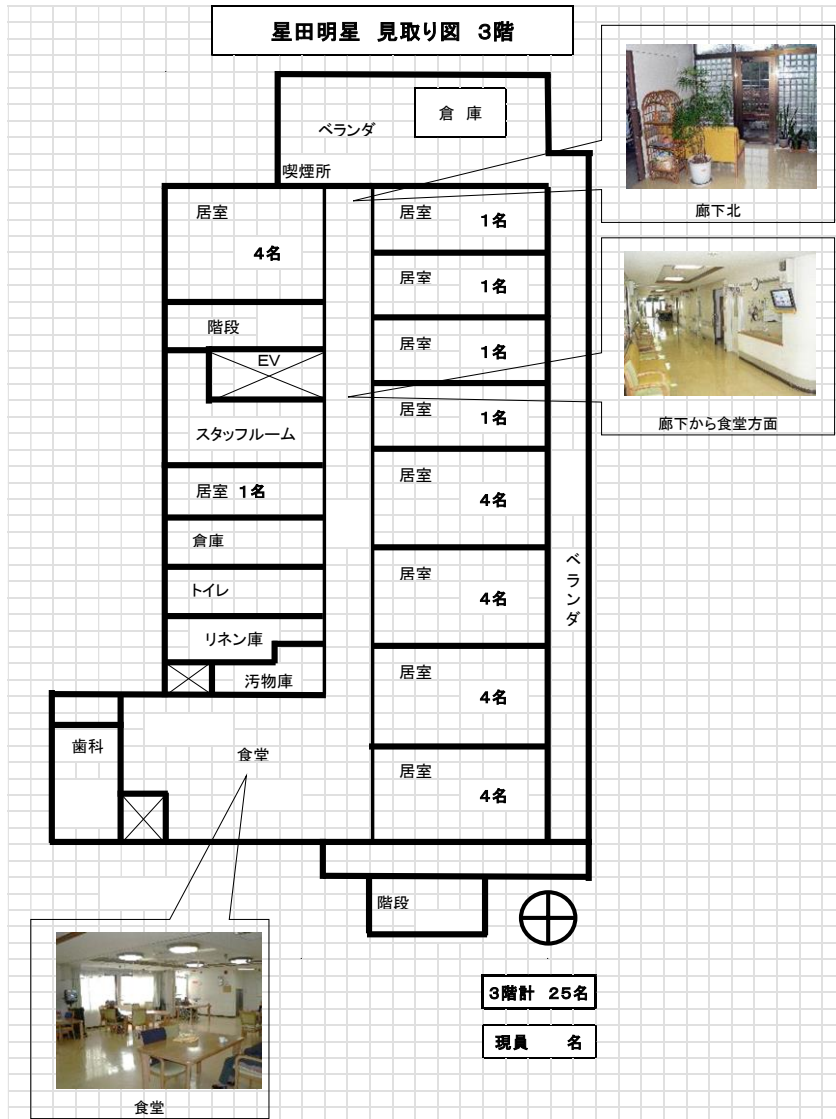


1階・2階特別養護老人ホーム（10名・29名）



3階特別養護老人ホーム明星（25名）

4階地域交流ホール及び居室（6名）



交流ホール「星徳館」

4階居室には見守りシステム基盤整備なし
整備 ➡ $70 - 6 = 64$ カ所

居室のバリエーション（従来型多床室44床の内5室20床をR4年度大阪府補助金により個室化整備）

個室



個室化多床室



多床室



各フロア食堂の狭さが難点 でも食事は自慢の運営です！

食堂



♪ 人数の割に食堂が狭いので場合に
応じて工夫が必要です

喰天堂レストラン



♪ ステーキ 天ぷらうどん定食 す
き焼き定食 海鮮ちらし寿司定食
刺身定食 にぎり寿司 ほか
バリエーション豊富にホールで開催

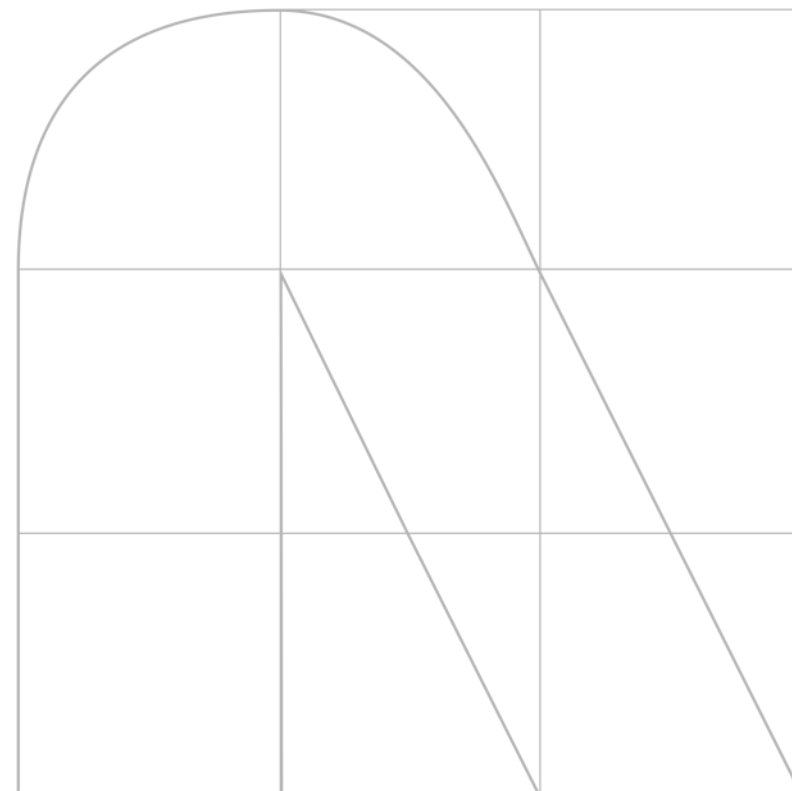
ごちそうの日



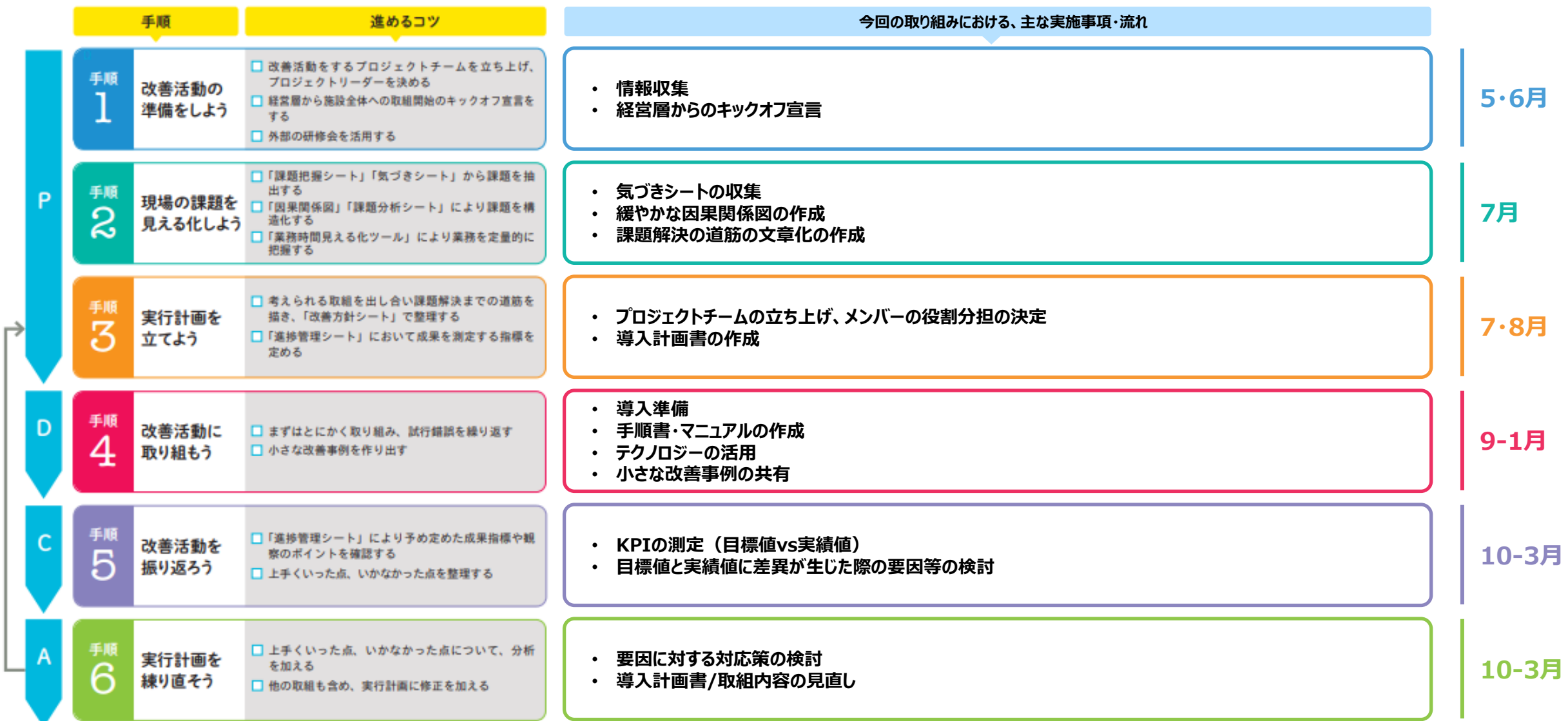
♪ てまり寿司 天ぷら
和え物3種 煮びたし 吸い物

02

取組概要・流れ

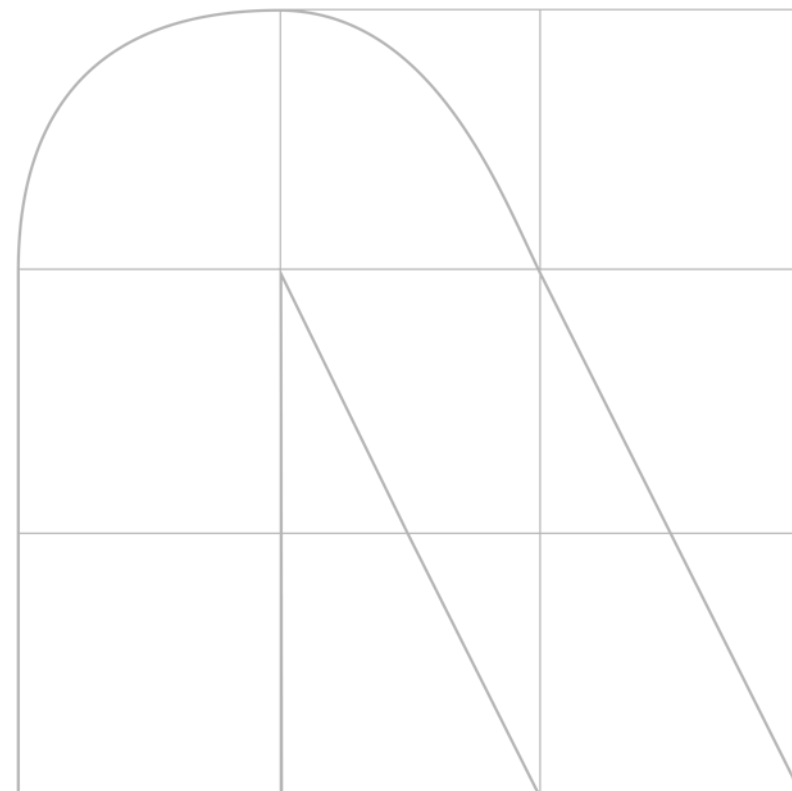


02 取組概要・流れ



03

取組結果・成果



- 情報収集

- R3年度
 - * 他法人 2 か所見学ならびにLIFEの勉強会 呼びかけ参加（4法人）
見守り支援システムとの出会い
 - * 見守りシステム（その1）→デモ実施
 - * バリアフリー展参加
見守りシステム（その2）『A.I.Viewlife生体センサー連動版セット』出会い →デモ実施
- R5年度
 - * バリアフリー展参加
『A.I.Viewlife生体センサー連動版セット』を選定していることを再確認する

- 選定

- 『A.I.Viewlife生体センサー連動版セット』を選定しR4年度より補助金エントリーに臨む
- 決め手 有線LANであること（R3年度にケアパレットを開始し、Wifiの不確かさに問題を感じる）
近い将来の他の設備（ナースコール）入替時にも業務効率化とコスト削減がはかれる
シルエット画像を選定できる IRセンサーと生体センサー連動によるデータ活用の有効性 等々

- 補助金エントリー

- R4年度 介護ロボット補助金エントリー 1 回目落選
- R5年度 介護ロボット補助金エントリー 2 回目落選
- R6年度 伴走支援プログラム申請

- ・ 課題、困りごと、不都合や負担に感じていることの聞き取り（スタッフアンケートの実施）
- ・ 因果関係図作り



見える化作業以外の
現場の課題

ケアパレット（記録ソフト）の使用でWifiがつかないなどの不具合多発問題があった

介護スタッフの負担・不安に感じている業務内容について聞き取り

転倒事故リスクの高いご利用者の対応について負担に感じている

見えないところにいると不安、予想外の出来事を可視化できない

- すべてを見守りできない。見守り不足。配置人数の少ない夜勤帯
- 転倒を減らすことで事故を予防することができ職員の負担が軽減する「転倒予防」

転倒の原因を深掘りしてみた

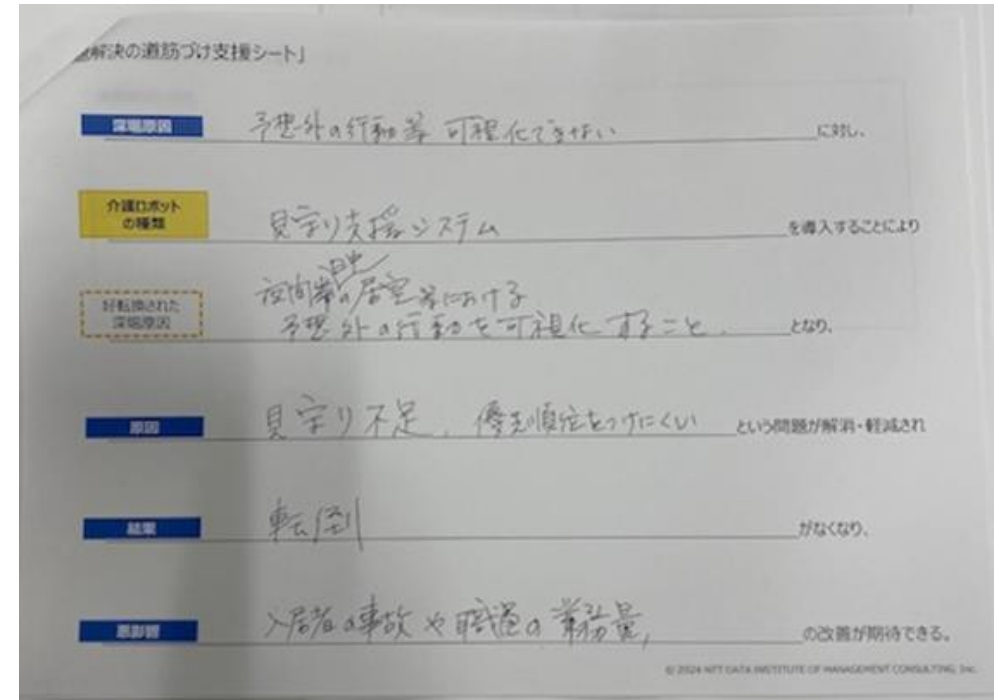
↓
排泄が関係した転倒事故・インシデントが多いのでは？
突発的な排泄介助に負担を感じている

↓
排泄介助の質を向上すれば転倒事故・インシデントは減るのでは？

- 現場課題と解決の道筋

システムを導入することにより、夜間帯や日中の居室における様子を可視化することで見守り強化、画一的なおむつ交換から個別適宜必要な排泄介助の導入を試みる。無駄な訪室回数を減らし、データを分析することで先回り介護につなげ、夜間の予期せぬ更衣やシーツ交換回数を減らす事が期待でき夜間勤務職員のストレスの軽減をはかる。

アクセスポイントを増やすことでWifi環境が良くなり、ケアパレットの動作環境も良くなるのでは



課題課題	内容
課題課題	予想外の行動等 可視化できない に対し、
介護ロボットの種類	見守り支援システム を導入することにより
好転換された深掘り	夜間帯の居室等における 予想外の行動を可視化すること となり、
原因	見守り不足、優先順位をつけにくい という問題が解消・軽減され
結果	転倒 がなくなり、
効果	入居者事故や職員の業務量、 の改善が期待できる。

03 取組結果・成果

【手順3】実行計画を立てよう

- 本プロジェクトの目的
介護ロボット（見守りシステム）を導入して、職員がシステムの活用を通じてデータ分析を行う。入居者の行動の本質に迫り、適切な排泄介助に結びつける。効率的で持続的な施設運営を実現する。
- 導入する介護ロボット・ICT
種類：見守り
製品名：A.I.Viewlife生体センサー連動版セット
- 導入成果を測るKPI（成果指標）

	KPIを設定する文節	設定したKPI	KPIの測定方法	KPIの測定ピッチ
1	夜間の更衣やシーツ交換回数を減らす	夜間の更衣回数	夜間の更衣回数のカウント	毎日
2	同上	シーツ交換回数	夜間のシーツ汚染回数のカウント	毎日
3	同上	オムツ外しの回数	オムツ外し回数のカウント	毎日
4	無駄な訪室回数を減らす	夜間の訪室回数	夜間の訪室回数のカウント	毎日
5	夜勤勤務職員のストレスの軽減	夜勤勤務時ストレス度合 5→4	アンケート 5段階評価	半年に一度

03 取組結果・成果

【手順3】実行計画を立てよう

- プロジェクトチームの検討
課題とKPIの大枠が決定したところでメンバーを選出

	メンバー	役職	プロジェクトの役割
	A	施設長	統括責任者
	B	副施設長	リスクデータ分析・研修・マニュアル担当
	C	介護主任	プロジェクトリーダー・OJTリーダー
	D・E	707リーダー	排泄介護運用ルール・申し送り・データ分析・OJTリーダー
	F	排泄委員長	排泄介助個別対応一覧作成・データ分析
	G	介護職	若手介護職の中から選出 技術担当
	H	介護支援専門員	サービス担当者会議におけるデータ活用チェック担当
	I	相談員	機器管理（取付箇所変更等の対応）

※メンバーに看護師は含まれていないが、のちの分析データ活用場面においては、看護師にとっても有用性が高く、日々活用することになる

03 取組結果・成果

【手順3】実行計画を立てよう

【苦労した点】

歩数について導入前のデータが少ない→効果がわかりづらい
KPIデータの収集において現場職員の協力が得にくい（スタート時点）
→アンケートの提出期限を守らない・入力のルールを決めたが入力をしていない

【工夫した点】

プロジェクトチームに新人職員KPIに即したメンバー選出により改善サイクルに取組やすくした
新しい取り組みを前向きな気持ちで取り組めるように説明の機会を多くもった



- 機器の選定
- 補助金エントリー、申請
- 工事業者との三者打合せにて既設・新設アクセスポイントをA.I.Viewlife及びケアパレット共に有効にすることの確認
- 有線LAN、USB配線工事（64室）、Wifi環境の整備、アクセスポイント・ハブ（取り付け場所の検討）
- スマートフォンの管理（充電場所、担当スタッフ、アクセサリーの準備）
- 取り扱い説明会の設定（リーダー等向け、介護スタッフ向け説明会日程を業者（九州の方）と調整）
- ご利用者・ご家族へ説明と同意
- 対象利用者の選定（連動センサー16台）
- 対象利用者ごとにセンサー通知項目設定
- 導入前スタッフ向けアンケートを実施
 - 初めのグーグルアンケート作成にチャレンジ・業務省力化につながる

- 手順書
業者使用説明書を活用



*ステーションまたは任意の居室を複数確認したい場合、管理者メニューで設定ができます *A.I.Viewlifeシステムのアイコンは です



【活用場面】

居室で過ごされている間の見守り

【活用方法】

転倒予防…行動を通知

転倒の原因解明と対策…転倒、転落時の録画検証と対策

検知以外のIRカメラが映し出す入居者の行動から先回り介護につなげる（おむつ外し予防など）

突発的な排泄介助を減らす…眠りの深さ、排泄前の行動パターン、トイレ通知を把握

看取り期…呼吸レベル、体動による分析データの活用

薬の変更時…体動と呼吸の連動データグラフから状態を把握

介護現場における職員の内部けん制体制の確立

【活用時間帯】

日中と夜間で検知設定を変更

日中と夜間の時間を設定 6：00～16：59（日中）

17：00～ 5：59（夜間）



【使用状況の情報収集】

各フロアにノートを設置し気づいたことを書いてもらう

寝ておられるのに起き上がり検知があった

居室前の廊下を歩いていると入室検知があった

転落したが検知がなかった

⇒業者に問い合わせ、より良い設定への見直しを行う
その人に合った個別設定への理解を深める

事故・インシデントの作成

発生時の状況でどのような検知があったか残す

録画内容から原因を記録

【改善事例】

- ・A M2時に転倒される。自立歩行の方が入室し、しばらくして「転倒」検知。録画を確認すると、照明のヒモを引こうとしてふらつき右側を下にして転倒。頭部は打っておられないことがわかった。⇒照明のヒモを工夫。転倒後の観察部位の特定。
- ・「トイレ入室」を検知することでトイレに入ったタイミングで介助に入り便のふき取りや処理を適切にできるようになった。
- ・日中モード7：00からとしていたが、ご利用者の起床・活動時間が早いことがわかり6：00からに設定を変更した。

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

- K P I 結果（11月下旬見守りシステム整備 12月からシステム運用開始）

	10月	11月	12月	1月	2月	10～2月の変化
夜間の更衣回数	50	43	51	39	30	60%
夜間のシーツ汚染回数	33	26	23	29	15	45%
夜間のオムツ外し回数	35	24	21	11	13	37%
夜間の定時以外訪室回数	51	79	105	47	58	114%
夜間の歩数		10062	10829	10058	10964	109%

アンケートより（夜間19時～7時）の業務で「身体的負担」を感じますか？

	非常にそう感じる	ややそう感じる	どちらともいえない	あまりそう感じない	まったくそう感じない	夜間業務をしていない
運用前（N32）	12.5%（4）	40.6%（13）	28.1%（9）	11.3%（2）	12.5%（4）	
1か月後（N27）	14.8%（4）	22.2%（6）	14.8%（4）	12.4%（2）	6.2%（1）	37%（10）
		△18.4%（7）				

03 取組結果・成果

【手順5】改善活動を振り返ろう

- アンケートより（夜間19時～7時）の業務で「精神的負担」を感じますか？

	非常にそう感じる	ややそう感じる	どちらともいえない	あまりそう感じない	まったくそう感じない	夜間業務をしていない
運用前（N32）	3.0%（1）	39.4%（13）	15.2%（5）	3.0%（1）	6.1%（2）	33.3%（11）
1 か月後（N27）	0.0%（0）	44.5%（12）	11.1%（3）	3.7%（1）	3.7%（1）	37%（10）
	△3.0（△1）	5.1%（△1）				

※最初のアンケートと1 か月後のアンケートの介護職の母数における差の要因は、留学生 3 人や派遣社員の方が1 か月後のアンケートには含まれていない等

【K P I 結果の振り返り】

オムツ外しや更衣回数・シーツ交換回数の数値は最近になり大きく変動した（成果を実感）

歩数カウント数値が正確か不安がある

ご利用者 A D L に変化があった

歩数計の使用方法が間違っている

訪室について記録ができていないことがある⇒訪室しても何もなければ記録を残さない

訪室回数のカウントは中止して歩数のみ変更する

【アンケート結果】

身体的な負担が軽減↓している

精神的な負担が微減↓している

日中「移乗の介助」に負担を感じているスタッフが多い

夜間「突発的な排泄介助」に負担を感じているスタッフが多い

「働きやすいと感じるか」が 非常にと、ややそう感じると回答35.3%→53.9%に増加した

03 取組結果・成果

【手順6】実行計画を練り直そう

◎ なんだかうまく稼働していない

フロアリーダーが個人別の見守り項目の設定をするが、システム上の項目の言葉とリーダーの現場感覚のとらえように誤差があり
検知設定やセンサー反応位置の設定が個人に合っていない状況があった
うまくいっていない内容を説明できないスタッフ→システムへの不信感。せっかく設置したけど使えないなあなどの声
業者に検知のずれや不具合を相談、設定間違いや設定変更を的確に指摘してもらえた。→便利だ。設置してよかった。



業者とのやり取りや、細かい設定ができる職員を育てる必要がある
メーカーとの定期WEB相談会を実施し、不明点を解消していく。

◎ システムの分析機能（呼吸と体動→眠りの質）の活用ができるようになった。

当初の利用目的以外でも活用できている。色々な方や場面に活用したい。



センサーの増設計画（予算化）

◎ 個別の訪室、対応のルールを決め対応の標準化を目指す 検知＝危険を知らせるだけでなく必要な介助を知らせる

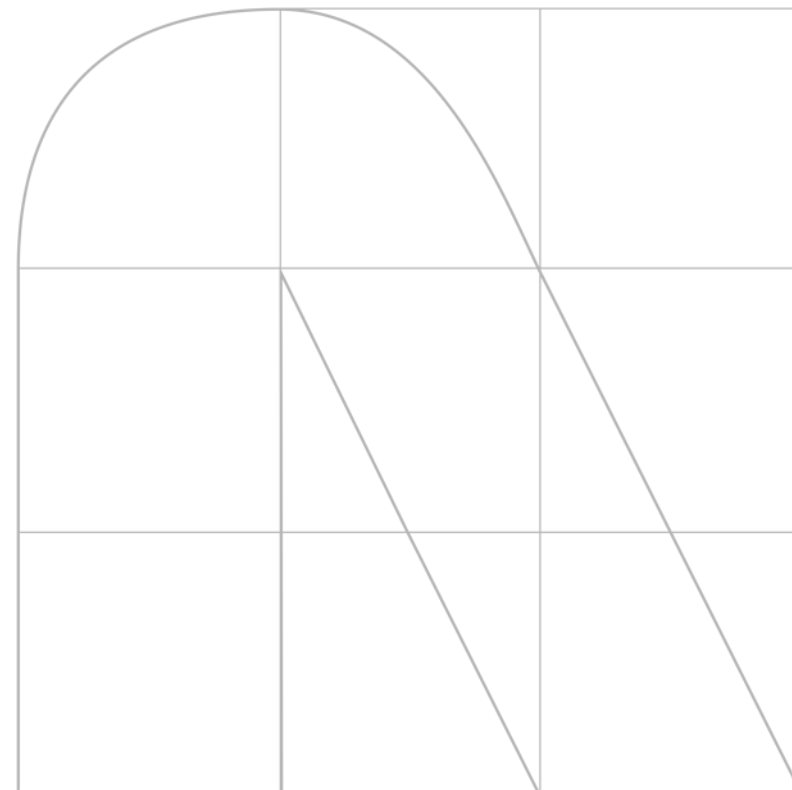


対応ルールの明文化・ケアプランに載せる

◎ 7台のスマホを持つ担当スタッフ（夜勤、早出、日勤M、遅出）の変更を検討する

04

取組のまとめ



【職員からの一言コメント】

- ・マイナス面はないです。トイレに入られたらすぐに気づくことができ早く介助に入ることができる
- ・余計な訪室をしなくて済む
- ・センサーマットと違い、状況がわかっているので鳴るたびに慌てて駆けつけなくても良いのですごく便利
- ・訪室回数が減ったことで看取り対応のために使う時間が増えた
- ・事故の状況が手に取るようにわかった
- ・すぐに確認できるという安心感がある
- ・もっと活用方法があるので研究したい
- ・食堂（共用部分）にもこのような見守りシステムがあればいい
- ・事故予防が強化できた
- ・一言でとどまらないくらい良い物
- ・スマホの多機能も活用している

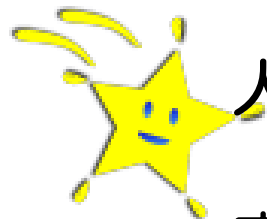
【プロジェクトを通じて感じたこと】

新しいことにチャレンジすることは大変だが必要
ワクワクしながら取り組むことで新しい発見ができる
自分の仕事に誇りを持てる
意見を交わしより良い使用方法を極める
職員の定着につながることへの期待
スタッフ（介護、看護師、管理職など）が一丸となって取り組むことで組織が成長する

【今後の方針】

整えたWifi環境を有効に活用する整備方針に切り替えていく
（今後、生成AIを活用した機器等の開発はめざましいものと期待される）
A.I.Viewlifeの連動機器（ナースコール、インカム）の導入を検討
人口減少に備え業務の省力化を目指す
働きやすい職場づくりで長く勤務できる
新しい介護、設備を柔軟に取り入れる





人口減少と社会変化を背景とする福祉課題に取り組む皆さまと共に。

実践発表にあたり、
3年目にして補助金という大切な財政基盤を得ることでシステムの整備をできたことに、深く感謝申し上げます。

伴走支援プログラムでは視座を与えてくださった皆さまに、現場で日々実践を積み重ねている職員一同
心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



社会福祉法人 豊年福社会

NTT DATA

株式会社NTTデータ経営研究所

Lighting the way
to a brighter society